



わたしの原風景④／すとうあさえ 2  
 作者が語る「14ひきのシリーズ」⑥／いわむらかずお 3  
 人とつながるということ／山田洋次 4  
 ビジュアルとともに楽しむ平安時代／岩城賢太郎 7  
 イラスト／西巻茅子

## 去年 たまたま

内田麟太郎

絵本の文章を書くようになったのは、たまたまケガしたからだったけど。少年詩を書きだしたのも、たまたま肉体の衰えを感じたからだった。

(あららら)

ぼんやりではあるが老後の自分が見えてきた。もう絵本のことばを書く気力も、童話を書く気力も「ありませ〜ん」という自分である。さびしかった。と、その時、まど・みちおさんのお顔が浮かんできた。90歳をすぎて詩を書いておられる。

(そうか！)

詩は短い。高齢になっても書けそうであった。わたしはまだ57歳だった。が、1年有半、わたしはただ時を見送るだけで、1行の少年詩も書けなかった。現代詩は書いていたが、少年詩を書くには、こころも方法も硬かったのである。子どもがいない。

で、たまたま、たまたまが来てくれた。パソコンのキーボードを見ていたら「へ」のキーが目についた。

^^^^^

これを8行。1行空け「うみがわらっている」。タイトルは「なみ」。

笑ってくれている子どもたちの顔が見えてきた。笑い声と波がひとつになり、新世界を見せてくれた。詩だ。まちがいに少年詩だと感じられた。聴覚と視覚のコラボ。だが、わたしは久しくこの「視覚性」の大切さを忘れて過ごした。たまたまがくれたご褒美だったのに。だが、たまたまだから、また、たまたま2年前に戻ってきてくれた。

気がつくと視覚性を楽しむ詩を書き出していた。それを「内田さんが書かれているのは、コンクリート・ポエトリー(中でも視覚詩)です」と、Sさんが教えてくださった。少年詩界にも視覚詩を書かれている人はおられたけど、それほど自覚的だとは感じられなかった。ならば、とわたしは自覚的に(?)視覚詩を書いていくことにした。視覚詩には、笑いがあった。不思議があった。なによりも子どもたちの好きな遊びがある。11月に、2冊の視覚詩集を出した。『ことばの遊園地』(石風社)と『たちつてと』(銀の鈴社)。銀の鈴社のものは、半分は言葉の詩であるけども。

たまたま、出会っていただけるとうれしい。

(うちだりんたろう／絵詞作家)

# わたしの原風景

40

すとうあさえ

童話作家



イラスト／平澤朋子

一九五〇年代の世田谷。家の周りは麦畑でした。

私は一人で遊ぶのが好きでした。庭の隅っこでたいい土を掘っていました。お団子にしたり、水を混ぜてぐちゃぐちゃにしたり。土の柔らかさや色やにおいの感じや、背中が太陽に照らされてだんだん温まってく感じを今でも覚えています。あまりに静かなので、母は私がおどこかに行ってしまったのではないかと心配したそうです。

庭には私の唯一の友達、三輪車もいました。三輪車は馬にも犬にもなりませんでした。ひもをつけて散歩させたり、土や草や花でごはんを作ったりあげたり、庭のイチヂクの葉をちぎって白い汁を出して飲ませたりしました。いっぱいおしゃべりをしました。一方通行ですけど、私の意識の中では「会話」。それも永遠に続く幸せな会話でした。

アリを見るのも好きでした。ある日一匹つまんでみたら、力の加減がわからなくてお尻をぶしゅっと潰してしまいました。すごく嫌なおい。もう二度とかぎたくないと思ったけど、その後も何度も潰した気がします。

幼い頃の記憶は、あるにおいをかいだ瞬間、ふっと蘇ってくるものがあります。私にとって、幼稚園に行く前の「庭」の記憶は嬉しくて楽しいのですが、そうではない記憶もあります。

小学校低学年の頃だったか、冬の夜に近い夕方、雨戸を閉めようとした時に、プーンと冷たい空気のおいがありました。そのとたん、寂しくて心細くて悲しい気持ちが一気に込み上げてきて、なぜか夜道をとぼとぼ一人で歩いていく自分の後ろ姿が浮かんできました。怖くて泣きそうになりました。別に悲しいことがあったわけでもないのに、夜の冷たい空気のおいは何度も私を怖がらせた。

今でも不意にそのにおいに出会うと、同じような寂しさが湧き上がってきます。けれども不思議なことに、浮かんでくるのは、「私」ではなく、台所に立つ母の後ろ姿なのです。懐かしい気持ちと、今はもつ会えない寂しさで、私はやっぱり泣きそうになるのです。

## 作者が語る 「14ひきのシリーズ」6 いわむらかずお



### 14ひきのおつきみ

いわむらかずお／さく  
1988年6月刊行

今夜は十五夜。みんなは木にのぼってお月見台を作っています。ごちそうをおそなえしたら、さあお月見です。



おつきさん ありがとう、たくさんの みもりを ありがとう、やさしい ひかりを ありがとう。

子どもの頃から、「おつきみ」が好きでした。夕暮れどきに野原で採ってきたスキの穂を一升瓶に挿して、お月さまを迎えて拝みます。心は宇宙にまで広がり、神秘的で大好きな行事でした。「14ひき」の子どもたちは、「ナラの木の上にお月見台を作ります。雑木林にいと、月の出が見えないのです。でも、「14ひき」

## 「14ひきのおつきみ」

の子どもの頃なら、木の上にお月見台を作るだろうと考えました。子どもの頃、木の上に、枝や古材なんかを持ち込んで、隠れ家を作って遊んでいたことがあります。でも、なかなかうまくできないんですよ。そのことが私の心に残っていました。「14ひき」の子どもたちは、立派なお月見台を作るんです。「おつきみ」には、そんな子ども時代のいろんな思いが込められています。

これまでの作品でも、自然をよく見て観察するのが大事だと言ってきましたが、『おつきみ』で大切にしたのは夕方の観察でした。夕方が近づくと、外に出て暮れていく様子を体で感じることを続けていました。

森の中になると木の根元の茂みの中から夜が生まれてくるように感じられます。そして、あたり一面ピンクになったり、黄色くなったり、乳白色につつまれたり、季節によっても天候によっても気温や湿度によっても違うんですね。そして、月がのぼってくる。満月の日の、この時間は感動的です。

夕方を描くことで、「太陽を描かずに太陽を描く」ということをやっていると言えると思います。

月がのぼった場面で、とっくんが手を合わせて拝んでいるおじいさんを、不思議な顔をして見上げていますね。このとっくんは、戦争中、祖父母の家に疎開していた時のこと、早起きだった祖父が、毎朝のぼってくる太陽に向かって柏手を打っていたのを、不思議に思っていていた私と重なるんです。

『おきまつり』もそうですが、『おつきみ』では、自然の中の「カミ」の存在を感じさせたかったのです。日本人が自然に対して感じてきたアニミズムの世界です。

(まとめ・編集部)

旧満州での生活体験、敗戦を迎えてから引き揚げまでの体験、日本の学校での体験——時代と時代の分かれ目で多くの人に出会い、生きぬき、九十二歳の今なお映画を撮り続ける山田洋次さんの言葉から、今を生きる私たちにとって大切なことは何か、考えたいと思います。

### 歯を見ればアメリカがわかる

もう何十年も前のことですが、「寅さん」のロケーションで熊本に行ったことがあります。夜に歯が痛くなり、地元の歯医者さんを紹介してもらった。治療が終わり、「まあまあ、お茶でも」ということになったとき、その歯医者さんはこんな体験を語ってくれました。

「私が若いとき、もちろん戦争中のこと。あるとき憲兵から、米軍の捕虜が歯が痛いと言っているから診てくれないかと。撃墜されたB29から落下傘で降りてきた兵士らしい。その男は痛々しいくらいに痩せ細っていて、坊やみたいに若くて、痛まじいくらい弱っている。虐待されたんだなあと思いつつ、椅子に座らせて口を開けさせた。そしたらね、私はぞっとしました」と言っています。

その若い兵士の口中の虫歯が、歯科医の手で見事に治療されている。アメリカ



写真提供：松竹

## 人とつながるということ

### 山田洋次 (やまだ・よっじ)

一九三二年大阪府生まれ。父親が南満州鉄道(満鉄)勤務となり、二歳で満州に渡り少年期を過ごした。一九五四年に東京大学法学部卒業後、助監督として松竹に入社。一九六九年に『男はつらいよ』シリーズを開始。最新作『ごんには、母さん』は九十本目の監督作となる。

では貧しい青年でもこんなに医療が行き届いている。日本では考えられないことだ。「こんな国を相手に戦争しているなら、日本は絶対に負けると思い、私はぞっとした。手が震えるほどでした」。

「手のふるうことありました」という熊本訛りを、ぼくははっきり憶えています。専門家ってそういうものですね。熊本の歯医者さんは米軍の捕虜の歯を見て、アメリカという国がわかった。国力がわかった。すごい国だとわかって、日本は負けると確信したと言っています。

### ソ連兵とシヨパンのレコード

歯医者さんが見通したように、一九四五年八月、日本の「負け」で戦争は終わりました。そのとき、ぼくは満州にいました。しばらく大連に残され、四七年に日本に引き揚げてきたんです。

四五年八月十五日を境に、お金は一切



『こんにちは、母さん』全国上映中  
©2023『こんにちは、母さん』製作委員会

使えなくなりました。銀行も郵便局も全部ストップ。株式も全部、紙切れになっ  
てしまいましたから。

日本に引き揚げるまでは、まずは「売  
り食い」です。あとはアルバイト。ぼく  
はロシアの将校と仲よくなって彼の家で  
働いた。ストーヴを焚いたり、パーティ  
のときにウオッカを運んでチップをも  
らったりしました。

その将校は学校の先生だったので、ぼ  
くは覚えてたのロシア語で「先生、これ  
でもう戦争は終わったんだね」と言っ  
たら、「終わらないよ」「どうして？」と  
聞いたら、「またアメリカとやるんだ」  
ぼくは、「ええっ、また戦争するのか」  
とびくりしました。

日本からの情報は何も入ってこなかつ  
たけど、これで、戦争はすべて終わった

と思っていた。ロシアは戦勝国だし、こ  
れで万々歳だろうと思っていたら、ロシ  
アの将校が「またやるのだ」と言う。当  
時はまだ、アメリカとロシアがどうして  
仲が悪いのかなんて知らないですから。

あとになって、スターリンググラードの  
惨状なども知ることになるけれど、その  
ときはまだ、まったく知りませんでした。  
ただ、ベルリンから来た兵隊がたくさん  
いたことはわかりました。

というのは、八月九日から始まったソ  
連軍の満州侵攻でソ連の軍隊が満州を席  
巻し、日本の敗戦後まもなく、ぼくの家  
の前にタンク（戦車）が来たんです。タ  
ンクが横づけになって、中からバラバラ  
と兵士が出てきて、その辺の家に入って  
物を取っていく。ぼくの家には、隊長み  
たいな将校が入ってきました。汚い格好  
をしてたけど、軍服

の襟章でわかるん  
ですね。彼は応接間に  
入ってきた。そうい  
うときは、おふくろ  
はパツと逃げるんで  
す。親父が慌てて、  
ぼくに「おまえは紅  
茶を入れてこい。砂  
糖をいっぱいつけ  
て」と。急いで紅茶

を運んでいたら、親父が愛用していたピ  
クチャーの大きな蓄音機があるのを見て、  
将校がレコードをかけると手真似で言う  
んです。ぼくが好きなシヨパンの『華麗  
なる円舞曲』をかけたら、その将校が  
「シヨパン」と言った。うわあ、シヨパ  
ンを知ってるんだと思ってね。

その将校が親父となにか喋り始めたん  
です。あとで聞くと、最初は英語で喋っ  
てみたけど全然通じない。親父はロシア  
語が喋れない。でもぼくたちの親の世代  
は高等学校でドイツ語を習っている。そ  
れでふと思いついて、簡単なドイツ語を  
喋ったら、ドイツ語が話せると言うんで  
すって。どうしてドイツ語が喋れるのか  
を聞いたら、「俺はベルリンから来た」  
と。ベルリン陥落のあのすごい戦争を体  
験しているんですよ、彼らは。これで故  
郷に帰れると思ったら、スターリンに満  
洲に行けと命令された。それで貨物列車  
にタンクを載せてシベリア大陸を一カ月  
くらいかけて、延々とやってきたんです。  
ぼくの家に入ってきた将校は、紅茶を  
飲み、レコードを聴いてタンクに乗って  
帰っていききました、何も悪いことはしな  
くて。

## 八路軍のお兄さん

それから何カ月かしたら、今度は八路

軍（中国の抗日運動期に華北で活動した  
中国共産党軍）の将校が来ました。

八路軍の将校が流暢な日本語で、「あ  
なたがたは、こういう法律にしたがって  
ここを退去してください。あなたがたが  
住む場所は、こういうところに準備しま  
したから、あと三日以内に全部やってく  
ださい」みたいなことを。

おふくろはそのとき、「あなたはど  
うして、そんなに日本語がお上手なの？」  
と聞いたら、子ども心に覚えてるんだけ  
ど、彼はちょっと具合悪そうな顔をして  
「ぼく、京都大学出身なんです」と言う。  
「ええっ」と。ぼくもおふくろも、なん  
でこの八路軍の将校が京都大学出身なの  
か、ぜんぜんつながらないわけです。

何年も後になって、「そうか、京都から  
下関、朝鮮半島をへて満洲、さらに中国  
と、日本の憲兵の目を逃れながら、はる  
ばる八路軍の主力部隊がいた延安<sup>えんあん</sup>に行き、  
抗日戦争に参加したんだろうな」と想像  
しましたけど、とても印象的でした、  
「京都大学を出ています」というのは。

ぼくはずっと、そのお兄さんが気に  
なっていました。今ごろ、どうしてるか  
など。その後、満洲に行く機会は何度か  
ありましたけども、できたら会いたいな  
と思いましたが、今はもう生きてはいない  
だろうけど。

### 大陸に置いてきたもの

一九四七年、ぼくたち家族は最後、無一文になって、リュックサックに持てるだけのものを詰め込んで、それまで住んでいた家を離れました。でも、大空襲で丸焼けになった人たちのことを思えば、ぼくたちはまだ恵まれていると思います。

とにかく、背広やコートは全部、中国人やロシア人に売って、残ったものを持てるだけ持って引き揚げてきた。出発の前の晩は大騒ぎです、どれを持っていくかということ。中学一年生のぼくが持っていきたいものと、親父が考えるものは違う。親父に「それはダメだ、それもダメ」と。

ぼくが持っていきたかった落語全集は、こんなに厚いんです。「バカだなあ、おまえ。そんなもの持っていけるわけないだろう」と親父に叱られた。「持っていないならコンサイスの英和辞典だ。日本の中学で英語の授業があるんだから」と。ぼくは仕方なくコンサイスをリュックに入れました。持っていけないとわかっていたら、落語全集を、あの八路軍のお兄さんにあげたのですが。

翌朝八時ごろになって「さあ行く」と言っていていくと、家の周りに何十人も中国の貧しい少年たちが待っている。ぼくたちが道路に出てから振り返って見た

ら、みんな一斉に「わー」と家の中に入って、残っているものをとっていくのが見えませんでした。「ああ、落語全集、あいつら持っていっちゃうんだ」と。読めやしないうのに、ちくしょめ」と思ってたね(笑)。

今もヨーロッパの難民の人たちは、出発の前の晩に同じ体験をしているはずですね。貧しい家であっても、さあ、明日からこの家には二度と帰れないんだよ。持てるものを持って行くからねと。

### 山口で学んだ政党政治

大連を後にしたぼくたちは、引き揚げ船で海を渡り、親戚を頼って山口県にたどり着きました。

これから日本はまったく違う国になるといっことはわかりました。

山口の中学の社会の授業で民主主義を習ったのを覚えています。ほんとうに一生懸命、若い先生で自分でもよくわかっていないんだろうけども、民主主義というのがどういシステムなのか、三権分立とはどういうことなのかを教えてくださいました。

あるとき、「君たちもあと何年かしたら投票権をもつようになる。国会議員の投票をするんだぞ。今もちょっと選挙をやっているけども、もし君たちに投票権があるとするれば、議員を選ぶのに、どうい

う基準で選ぶのか。今から三つ言うから手を挙げる。一つは候補者の主義主張、一つは人格、一つは所属する政党。まず主義主張だと思つ者は」と言ったら、バラバラと手を挙げた。人格と言ったら、大部分の手が挙がった。ぼくも手を挙げた。第三の政党と言ったら、一人しか手を挙げなかった。「最後の一人、正解はお前だけだ。政党で選ぶのだ、選挙は」と。「人格並びに主義主張はその次だ。それが政党政治なのだ」と、一生懸命に先生が言ったのをよく覚えています。

政党というものができて、国会を政党の人数によって支配するということになると、政党を選ぶことが大事になるといふのを、先生は教えたわけです。

### 映画を撮り続けてきて

この映画にはどういメッセージを込めましたかと聞かれることが多いけれど、その質問は困るんです。作りたいものというの、もやもやとしたイメージ、あるいは曖昧な形としてあるもので、言葉で説明できないから映画にするのです。

見た人がいるんなことを思い浮かべる、こっぴつメッセージかと。それは、見る人の解釈です。作るぼくたちがそんなことを考えたら、つまらない映画しかできないんじゃないかと思いますが。

### そして今また時代の分かれ目

今は、時代と時代の分かれ目にきているような気がしてなりません。とても危険な時代にぼくたちは生きて、この世を去らねばならない。ぼくは死んだあとのことだけでも、ほんとうにこれでいいのか、と近ごろ思いますね。Aーは人間より頭がいいんだぞと言っても、誰も喜ばないじゃないですか。「おめでとう、すごいものができてよかったね」とは思わない。どっちかといえば不安になり、気持ち悪くなる。原子爆弾の発明が人類を決して幸せにしなかったように、Aーもそれが本当に人間を幸せにするのか、ということを偉い学者が真剣に議論してほしい、と思う。

毎日のニュースのトップにガザやウクライナの戦場のむごい映像がうつるといふ不安な時代をぼくたちは迎えています。そういう状況にあって、当てになるものは、結局のところ、人と人が、ちゃんと心を通わせて、つながっているということではないでしょうか。でもはたしてつながり方をぼくたちは知っているのだろうか？

電話よりもメールの方が話しやすい。そういうつながり方で大丈夫なのかと、ひどく不安に思つ今日この頃です。

# ビジュアルとともに楽しむ 平安時代

岩城賢太郎

小・中学校で古典の本文を音読すること、暗唱することは体験しているものの、内容をじっくり味わったことはない……。大学の教室でもそのような反応に接することがあります。

本書では、大きな絵とともに本文が掲載されています。たとえば、光源氏が小柴垣から美しい少女を覗いている絵を見ながら、「髪は扇をひろげたるやうにゆらゆらとして、顔いと赤くすりなして立てり」と音読してみる。物語の場面が生き生きと立体的に迫ってくることでしよう。

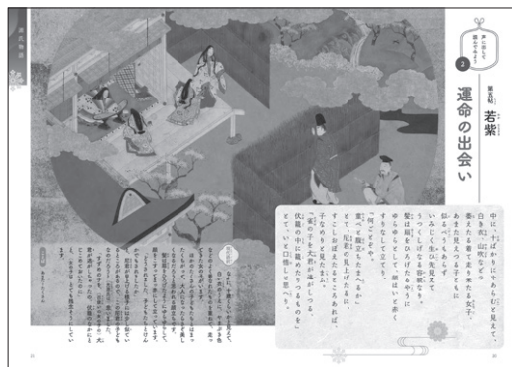
さらに本書では、あらすじを紹介し、また本文の場面と関連づけて、装束や調度などの生活

## 見て味わう×読んで知る 平安時代の古典と文化

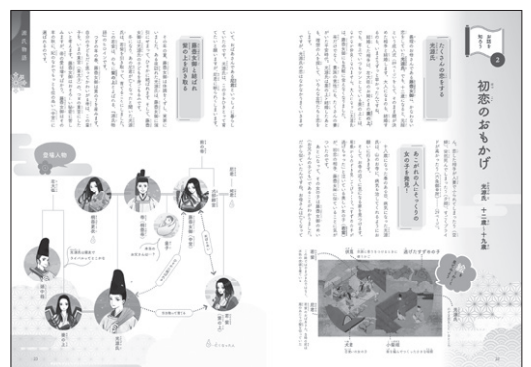
川村裕子 / 監修  
定価5940円(本体5400円+税10%)



# 『見て味わう×読んで知る 平安時代の古典と文化』



有名な場面の原文と絵



あらすじと  
登場人物紹介



関連する  
平安時代の文化の解説

文化、官職や年中行事などの有職故実、政治や歴史の流れなどへと、自然に興味や関心が向き、多角的な理解が深まるように構成されています。イラストや写真も豊富で、学校の国語便覧や日本史の資料集などよりも、やさしく古典の文学と文化に向き合うことができるのではないのでしょうか。

いま、美術館、博物館、図書館などでは、古典文学をテーマにした絵本や屏風などを展示する催しがさかんに行われています。教室を飛び出して、新しい絵画作品にめぐり会い、古典の

文学の多様なひろがりを実感する。本書はそのお手伝いをしてくれるかもしれません。

また、本書の「物語の読まれ方」という箇所では物語絵を見つめながら、女房が読み上げる本文に耳を傾ける、という物語の鑑賞のされ方がありました。平安時代になりつて、子どもは絵に注目し、保護者の方や先生がゆっくりと音読してあげ、いっしょに平安時代を舞台にした作品を楽しんではいかがでしょう。

(いわぎけんたろう / 武蔵野大学准教授)

# 12月の新刊図書！

## 読者の声

ピーマン村のおともだち  
**やっぱりハロウィン**

中川ひろたか／文  
村上康成／絵  
定価1430円（本体1300円+税10%）



子どもたちのいたずらに園長先生も郵便局のお姉さんもニコニコで楽しかったです。どんないたずらをするのか、うちの子も考えて話してくれ、盛り上がりました。  
（広島県 M・H 四一歳）

松谷みよ子 あかちゃんの本

**いいおかお**

松谷みよ子／ぶん  
瀬川康男／え  
定価770円（本体700円+税10%）



やさしい語り口調、やさしい絵、ダイナミックなぞうさんの絵、そして最後のビスケットには思わず大人もにっこり。ごはんのたびに「おいしいはどこ」をくちずさんでしまいます。  
（大阪府 M・S 三三歳）

単行本図書

**どんなイチゴも、みんなかわいい**

筆原かも／作  
中田いくみ／絵  
定価1320円（本体1200円+税10%）



書店で、背表紙の赤い色と、かわいい女の子とイチゴのイラストに惹かれて買いました。親の目には字も小さい気がして、小学三年生には難しいかなと思いましたが、読み始めると本人は共感できる部分が多いようでした。学校、友だちとのエピソードをとても楽しんで読んで、内容を親にも話してくれました。  
（青森県 T・S）

どうぶつ・ものがたり絵本  
**アザラシのアニュー**

あずみ虫／作

定価1650円（本体1500円+税10%）



氷の海の上で、タテゴトアザラシのあかちゃんがうまれました。おかあさんはあかちゃんに、アニューとなづけました。

単行本絵本  
**ビスケのいえで**

たかどのほうこ／作  
定価1540円（本体1400円+税10%）



なんて、なんてかわいくてステキな絵本！ たかどのほうこ先生の本は全部大好きなのですが、まさにこんな絵本を待っておりましたというくらい心にきゅきゅんときました！ ゆいぐるみたちのわちゃわちゃと、みどちゃん、のぶちゃんみたいな子、ステキです。とにかく幸せになりました！我が家にも似たようなぬいぐるみがありますので、この絵本を読んであげたいです。



イラスト／西巻茅子

## あとがき

●子どもというのは「身の程知らずに伸びたい人」のことだ——生涯一教師を貫き、国語教育に名を残す大村はまの言葉です。歳を重ねて人生を経験するにつれ、我が身の程を知り分相応に物事をわきまえる…それが大人になることならば、せめて子どもたちの身の程知らずの伸びたい思いには応えられる大人になりたい。良い年をお迎えください。 H

●『なきむしせいとく』（たじまゆきひこ・作）が「IBBYオナーリスト (IBBY Honour List 2024)」に選定されました。「IBBYオナーリスト」は、過去3年のうちに発行された児童書の中から、他国にも推薦したい日本を代表する作品が選ばれるものです。年の瀬にうれしいニュースが届き、また来年も頑張るぞと、気持ちを新たにしました。 N

2023年12月15日発行（毎月刊）

母のひろば 第715号  
定価50円（年600円／送料とも）

発行所：童心の会  
〒112-0011 東京都文京区千石4-6-6  
株式会社童心社内  
電話：03 (5976) 4181  
03 (5976) 4402（編集）  
編集発行人：橋口英二郎  
童心社のホームページ：  
<https://www.doshinsha.co.jp/>  
デザイン：坂本梓 ロゴ：谷口広樹

## 定期購読のご案内

おハガキにてお申し込みください。下記QRコードからもお申し込みいただけます。見本誌（無料）と振込用紙をお送りいたします。

見本誌に同封されている振込用紙で購読料をお支払いいただけますと、手続き完了となります。購読料金は1年分600円（送料とも）。

